

春日部・豊野地区「防災談義」

大地震から命を守る

実践的『互近助防災』のお奨め

～横浜市旭区南笹野台自治会の被災時
『人的被害ゼロ』を目指す取り組み

本日の談義は、直接死中心の話■提言：「今後は関連死対策が重点テーマです」

2025年5月10日

横浜市旭区南笹野台 減災センター 顧問 稲垣博正

衝撃の問いかけ：自主防災組織は機能しているか？

1. 2023年消防庁の発表資料(自主防災組織率) ■ 当局にとっては「自慢の実績」??

全国平均:85.4% 1位：兵庫県97.6% 最下位：沖縄41.4%

香川：第3位97.2% 神奈川:72.9% 横浜市:84.6%

埼玉県：92%・
春日部市：96%

素晴らしい!!!

2. 2024年10月7日 NHKニュース 高松放送局

『県内12市町村の**70%**は、3300の自主防災組織の**活動実態を把握していない**』

①**職員不足**で把握できない

②補助金申請用の**名簿提出**状況のみを把握していた

③実態把握する**必要性を感じていない**

■結果1年以上活動なしの「**名ばかり自主防災組織**」も・・・

これは香川
と笹野台の
特例か？

3. 神奈川県横浜市笹野台地区の実態

笹野台連合自治会:13自治会の内、訓練を含めた**実活動は3～4自治会のみ**

■**連合防災訓練は毎年実施、名簿提出は100%、個別自治会の実活動は30%**

目次

0.春日部市豊野地区【防災談義】

序章- 1.災害形態別「被災死ゼロ」のポイント=互近助
序章- 2.地震地域の「命を守り、命を助ける」タイムライン
地震災害タイムラインチェックポイントリスト

- I.南(稲垣)の減災活動は何に学んだか?
- II.南笹野台はどんな町:どんな害リスク
- III.南笹野台の減災活動の歴史
- IV.南笹野台の災害想定から命と町を守る
- V.『互近助防災』：南笹野台の減災訓練の紹介
- VI.消火訓練
- VII.救護訓練
- VIII.救出訓練
- IX.子ども110番
- X.トランシーバとハンドマイク
- XI.南笹野台の減災訓練の流れ

【参考資料- 1】

災害時の「奇跡と悲劇」：何を学び何を提言するか？
6つのケーススタディ

【参考資料- 2】

- ・「助かる命なのに助からない=自助
- ・「助かる命なのに助けられない=互近助

【最後に】

災害被害ミニマム化の原則と姿勢

【付録 1～4】 ①新耐震の家なら大丈夫？

②耐震基準：何が違うの？

③簡易家具固定の知恵

④災害関連死を防ごう

最近の異常気象は「地球沸騰化？」・・・

▣何時でも何処でも「大水害」!!!!

直近の日本での地震の傾向は・・・・・・・・

「大地震の前夜？」

▣能登、南海トラフ西端、神奈川・

2000個の活断層と4枚のプレートの上の日本

▣何時でも、明日にも、此処でも??

0.春日部の「災害」➡想定外の【水害】と【地震】に対応!!!??

- ➡ ①水害 1789年 浅間山噴火：火山灰は河川を埋めて洪水
大地震による堤防裂け目からの決壊にも注意！
1910年 8月豪雨：市内泥海化
1947年 9月：キャサリン台風➡利根川決壊

地球沸騰化時代は想定外の水害を前提に防災＝オーダーメイド避難！

➡ 拡幅、堤防、小塚築造、高台移転、調圧水槽で対応

【災害は全て想定外で発生】：また水害はある、想定外の規模で！

- ➡ ②地震 1923年 9月関東大震災➡全半壊646、死者29人

茨城南部地震

【首都直下は来る】：地震・火災対策を急ごう

全壊:1076、死者:54人

- ➡ ③土砂災害 花積台耕地のみ??

軟弱地盤：新耐震家屋でも安心できない？

本日のテーマ➡「命を守る」「命を救う」「火災を小火で止める」に限定

『互近助』防災のススメ：地震中心のお話です。

➡ 「命が助かった後、生き延びる・災害復旧」には言及せず!!

序章-Ⅰ. 災害形態別「被災死ゼロ」のポイント=互近助

地震=突然

【予測不能・突発的に被災】

- ①事前準備で被害最小化が可能・・・・・・・・
- 自助：耐震家屋/家具固定/感震ブレーカ/消火器
- 共助：自治会に自主防災組織を作り訓練・・・
- ②発生後1時間に互近助の「救助と消火」で被災死ゼロ化に挑戦＝公助が来る前に共助で助ける
- ③要支援者救済を主眼に絆と助け合いの町作り

津波=到着まで若干の時間

【地震直後の津波警報後に到着】

- ①津波到着時間と自分の逃げ能力で「個人別逃げ場」を町内地図上に記載■オーダメイド避難
- ②ハザードマップと町内地図を元に逃げ訓練で「個人別逃げ場」への避難の可能性確認・・・
- ③逃げ足の遅い人への誘い合いと支援対応者を設定&「逃げ場」の探索・設定■自治会/自治体

洪水・水害=予測可能

【数日前の予報、当日の警報後】

- ①予報と警報を元に自治会で避難方針を審議
 - ・タイムラインの時間帯別行動の意味を共有
 - ・避難行動開始のスイッチを共有：水位/目視
- ②個人別にレベル毎の「逃げ場」を決めておく
- ③レベル3：高齢者等、レベル4：全員避難
- ④早く「逃げるは恥でなく命を救う」！！・・・

土石流・崖崩れ=予兆あり

【累積雨量/地盤の緩みで発生】

- ①大雨or長雨の累積降雨量と地盤の緩み/揺れ
 - 前線と台風、線状降雨、長雨後の地震・・・
- ②地元の危険スイッチの設定、共有と監視・・・
- ③気づいた時は遅い!! ■早めの避難は勲章!!
当該地区自治会は「まずは逃げよう」を啓発
 - 葉山町は「事前避難に宿泊補助金」支給

序章-Ⅱ. 地震地域の「命を守り・命を助ける」タイムライン

事前準備	自助	①家屋の耐震化 ④消火器2台- ②家具の固定化 ⑤ヘルメット ③感震ブレーカ ⑥ホイッスル	被災直後 ～ 15分	自助	①家族と自宅の安全確認・・・・・・・・・・ (☞余震に備え、窓や戸を開け出口を確保) ②自宅の安全な場所で様子見(玄関・廊下)・・・・ ③小火発生なら大声で助けを呼び・消火器で初期消火 ④怪我人発生なら、訪問する安否確認者に報告・・・ ⑤避難用の防災リュックの持ち出し準備・・・・・・・・ ☞水/食料・保険証・お薬手帳・トイレパック・・・
	共助	①町内要支援者把握アンケート ②安否確認の仕組み構築・訓練 ③自主防災隊設立・訓練・・・ ④安全避難路の確認と町歩き・			

事前準備と訓練なき地域に奇跡は起きない

被災直後に、何をすべきが分かる人は救われる

被災後 15分～ 1時間	自助	①自宅が安全なら黄色タオルを玄関に掲示 (玄関先に消火器も出しておく) ②安否確認訪問に対応後、いっときに赴く (いっときでは、救助・消火の共助に参加)	被災後 1時間～ 3時間	自助 互近助・共助	①在宅生活世帯は備蓄食/水生活準備 ☞トイレパックで水洗無しトイレ準備 ②親族等と緊急連絡ルート開設・・・ ①救助隊：怪我・下敷☞病院搬送・ ②消火隊：スタンドパイプ放水消火 ③被災世帯を避難所へ搬送、受付に ☞「避難世帯&在宅避難世帯情報提出」 ④避難所と自治会に連絡ルート確立 ☞被災情報の交換・配給品の申請と受取 ⑤通電火災の監視と対応・・・・・・・・ ⑥町内防犯見回り隊組成・・・・・・・・ ⑦延焼火災発生：風上広域避難所に誘導
	互近助・共助	①安否確認で異常を発見すると・・・・・・・・ ☞怪我人、下敷：救助隊に出動依頼・ ☞小火発見：近隣の消火器持寄り消火 ☞中火災発見：消火隊に出動要請・・・ ②被災世帯☞在宅避難、避難所避難の分別・・・ (避難所へ提出の避難世帯情報の準備、 自治会会館で被災世帯の一時受け入れ)			

地震災害 Timeline		住民の行動 自助＝My・Timeline		互近助＝Our・Timeline		共助＝Community・Timeline	
		下記の□に、どこまで出来ているかを自己チェックしてみよう				自治会の行動	
事前準備		□耐震家屋に住む □家具を固定化 □感震ブレーカ設置 □消火器2台保有 □5日分の備蓄(食料・水・トイレパック) □避難所までの安全路確認街歩き		□町の災害リスクを住民に啓発・徹底(下敷き怪我、火災) □町内に自主防災隊を組成 □防災備品の購入整備 □年1回の防災アンケート(世帯状況、 要支援情報 、自助準備) □毎年の防災・安否確認訓練実施(要支援者優先訪問)			
直後 ～2分		□自宅で身の安全確保 □脱出経路確保 (ドア、玄関、窓)		直後～15分は 自治会・減災センター役員・実働隊も、 自宅でMy・Timelineを実施する・・・			
2分 ～5分		□ガス元栓閉 □ブレーカ断を確認 □安全スペース (廊下・玄関)で様子見					
5分 ～15分		□災害情報入手□非常持出品準備 □自宅出火➡消火器消火(火事だ~大声で) □安全タオルを門扉に□消火器を玄関前へ					
15分 ～30分		□安否確認訪問者に自宅の状況報告 □異常発生は大声(ホイッスル)で助けを求める □安全なら「いつとき」に集結➡情報収集		□減災センター/いつとき避難場所の立ち上げ □安否確認隊は 班内(10～20戸)全戸訪問 (要支援者優先) □実働隊(消火・救出・救護)は機材準備/出動待機			
30分 ～1時間		□センターからの要請で、いつときリーダーの指示で異常発生現場に赴き、実働隊活動を支援 □災害伝言板 (171)に安否登録		□近隣小火発見：近隣消火器持寄りで初期消火活動 □異常発生：現場とセンターでトランシーバ通信して実働隊を現場に派遣➡消火・救出・救護➡人的被害ゼロ！！！！			
1時間以降		自治会		□町内被災状況の整理/今後の方針審議 □怪我人の病院搬送 □減災本部に防災トイレ開設・・・ □延焼火災：風上の広域避難場所に誘導(自治会では2カ所以上を設定) □避難所とホットライン開設・・・ □家屋崩落世帯：避難所へ避難世帯を誘導&在宅避難世帯を登録➡要支援特記を含む世帯情報携帯要			

I. 南(稲垣)の減災活動は何に学んだか？

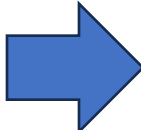
1. 防災塾だるま [防災塾・だるま \(darumajin.sakura.ne.jp\)](http://darumajin.sakura.ne.jp)

- ・ 稲垣は2014年～防災塾だるまで研鑽
- ・ 談義の会での防災講演（学者、自治体、実践者・・・）
- ・ 実践的防災まちづくりコーディネータ養成講座

2. NHKスペシャル 「震度7 何が生死を分けたのか」：160116放映 KKベストセラーズ NHKスペシャル取材班

3. 大避難 「何が生死を分けるのか」スーパー台風から南海トラフ地震まで NHK出版新書 NHKスペシャル取材班(島津英介)

津波・洪水からの「避難」の専門書：京都大学矢守教授「避難学(4290円)」  高いね!!!

 特に地震災害では、被災後1時間の【互近助防災】が命を守り、命を救う=ここに特化した防災・減災活動に注力！！

【互近助防災】 = お互いに助け合い、隣近所を助ける防災  回覧板配布範囲(10～15軒)

大地震
で何が
起きる
か？
最高の
のバイ
ブル

南
笹
野
台
の
造
語
？

自分の地域（町）の災害リスクを定義する事が防災の第一歩!!!

Ⅱ. 南笹野台はどんな町:どんな災害リスクがあるか？

1985年以降に出来た旭区の高台の新興戸建住宅地（戸数200戸）

津波、洪水、地滑りなし
家屋全壊は無い??



『地震対策に集中』
(木造密集地区は無い)

怪我、圧迫死、
火災が3大リスク



坂のある戸建て住宅街



自治会 会館



2カ所の防災倉庫



1組：第三公園

2カ所のいっとき避難場所

2組：南公園

Ⅲ.南笹野台の減災活動の歴史

1. 2014年～ 勉強会「減災WG」を毎月で、21回開催:当初9人→16人
 - 「南の災害リスク?」「自助?共助?」「自主防災?」「減災訓練?」
2. 2015年5月～年1回の「全戸減災アンケート」を開始→毎年継続実施(回収率85%)
 - アンケートでは「個人情報保護」観点で激論■「収集範囲」「管理範囲」「利用目的」「廃棄基準」を文書化
3. 2015年10月～ 減災センターの組織化:当初35人→現在56人
 - 「安否確認情報隊」「通信隊」「消火隊」「救出隊」「救護隊」「いっとき統括隊」
4. 2016年～ 減災(安否確認)訓練:8年連続実施中
 - 「安否確認20分で完了」「実働隊訓練と並行」「毎年レベルアップ」「参加率80%」

班単位(10～15軒)に同時一斉に安否確認訪問
5. 2019年7月 TV朝日の「スーパーJチャンネル」で南笹野台の減災訓練が放映
 - 「自治会加入率98%」「被災後1時間で何をするか?」「安否確認20分」「絆の街」
6. 2021年11月 近隣の「つくし保育園」と『防災連携共同活動』を開始
 - 「AED共用」「マンホールトイレ共用」「一時避難生活エリア提供」「子ども110番賛同」
7. 2023年9月 ぼうさい国体の「在京6局アナ・シンポ」で南の「互近助防災」を紹介
 - 10月1日 NHK「明日を守るナビ」で南の『互近助防災』が紹介された

IV、南笹野台の被害想定から命と町を守る

1. 横浜市が想定する「元禄型地震(大正大地震の2倍の規模)」被害で南笹野台の被害は？

地域	棟数	損壊棟数	出火棟数	人口	怪我人	死者	帰宅困難者
横浜市	837,000	14,800	77,700	3,690,000	21,700	3,260	主都直下地震 東京都 450～650万人 横浜市 46万人
旭区	65,000	6,245	887	251,000	744	52	
南笹野台	200	20	2.8	700	2	0.14	

2. 笹野台の被害想定から「何をポイントに防災」するか？ 今後の強化ポイントは？

①南笹野台の建屋は100%新耐震化■全壊は少ないが20棟の損壊発生(2000年耐震基準の家は少ない)

半壊、家具転倒等の損壊による下敷き被害や怪我人は発生

■下敷き被害と怪我人に最低2カ所対応できる体制と装備要！

被災後1時間以内に下敷き怪我人
救出出来るか？・・・

②火災は2～3カ所で発生する■これを小火・中火で消し止める為に

■まずは「消火器消火」次に「近隣消火器持寄り消火」、

最後は「スタンドパイプ消火」の3段階消火

- ①消火器消火は15秒:短かいよ!・・・
- ②スタンドパイプ現地到着は10分後
- ③その間は消火器持寄りで!・・・

③保護者帰宅困難で、暗闇に「孤立する学童」を誰が守るか？

南では「子ども110番」を防災でも運用

V. 『互近助防災』＝南笹野台の減災活動の紹介

安否確認



安全の黄色タオル



班長・情報担当で安否訪問



安否確認結果を本部に報告

班単位に一齐に同時並行で安否確認全戸訪問

消火活動



スタンドパイプ放水



水消火器放水訓練



近隣消火器持寄り訓練

救出活動



救出機器陳列



下敷き怪我人救出



怪我人の搬送

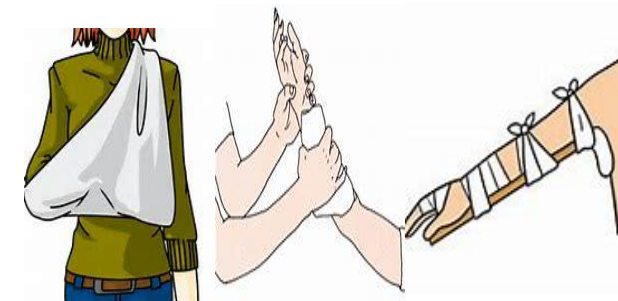
救護活動



AED蘇生訓練



心臓圧迫蘇生訓練



三角巾・止血・副木

VI. 消火活動: 消火隊は高齢化・人員不足・焼失家屋ゼロの街の協力者募集!!!

南笹野台の出火件数 : 横浜市公表の「元禄型地震」で2~3件!!

南のスタンドパイプは1台(2カ所以上の同時火災発生に対応不可!!)

■どうやって小火で消し止めるか? →

この人員増強が急務!!

① 自宅の消火器で消す

消火器消火時間=15秒!!!

② 次は、近隣消火器持寄り消火
で消火力アップ

: 5台以上の消火器を持ち寄ろう

③ 最後はスタンドパイプで消火

『助けて
~~』の
ホイッスル
は
防災必需品

これは経験と
パワーが必要
皆さんの協力を!!

南笹野台は3ステップ消火で
焼失家屋ゼロを実現しよう

近隣【消火器持寄り消火】で【焼失家屋ゼロ】を達成!!!! 202309 減災センター

消火器の使い方

1. 安全ピンをぬいて
2. ホースを火元に向ける
3. レバーを強くにぎる



複数台消火器でパワーアップ

2



小火で
消し止め

南笹野台は
『互近助
防災』で
【人的被害
ゼロ】
【焼失家屋
ゼロ】
を達成し
よう

玄関前提示の近隣消火器を持ち寄ろう!!
「互近助防災」で消火時間とパワー増強

1台の消火器の消火時間は
15秒です...パワー不足!!

重要

注目

近隣消火器を持って
xxさん宅へ
急行して下さい!!

ハンドマイクで呼びかけ

消火器を持って現場に急行

- ① 火事はまず自宅の消火器で消火する・
- ② ホイッスルを鳴らし、大声で火事だ!
- ③ いっとき統括/情報リーダーがハンドマイクで、近隣消火器持寄りを呼び掛け
- ④ 複数消火器で小火で消し止め!!!!!!!!!!!!

南のスタンドパイプは1台のみ: 複数出火は「持寄り消火」で対応!!!!

向う3軒両隣で助け合おう!!!

VII. 救出活動：救出隊も要員増強要!!!

建築土木経験、工作得意、キャンプ愛好者歓迎!!!

阪神淡路の死者＝全体で6500人
1時間以内＝3800人が死亡
大部分は圧迫窒息死
でも、被災後1時間以内は
消防・警察・自衛隊は現場に來れない

どうする？

南の被災活動を『互近助防災』に特化

■被災後1時間以内に命を救う

- ①安否確認で異常の早期発見・・・
- ②トランシーバで実働隊が現場急行
- ③皆で協力して怪我人の早期救出・

被災後1時間での救出が勝負

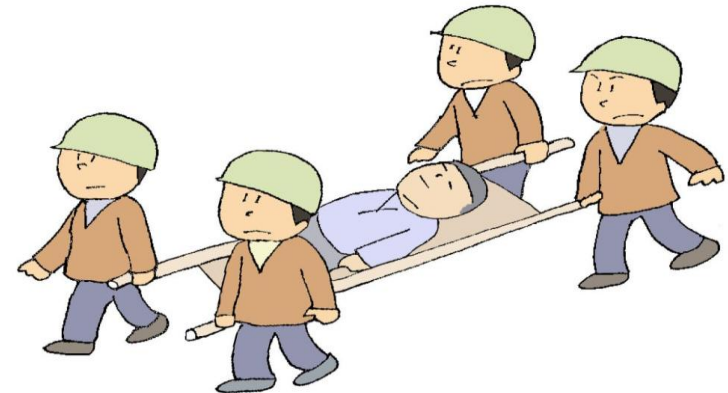
怪我人
発見



これがポイント



下敷き怪我人は、1時間放置されると
圧迫窒息を起こし呼吸不全で死に至る■阪神淡路の実績!!!!
下敷き状態からの救出を最優先に救出活動を実施する!!!。

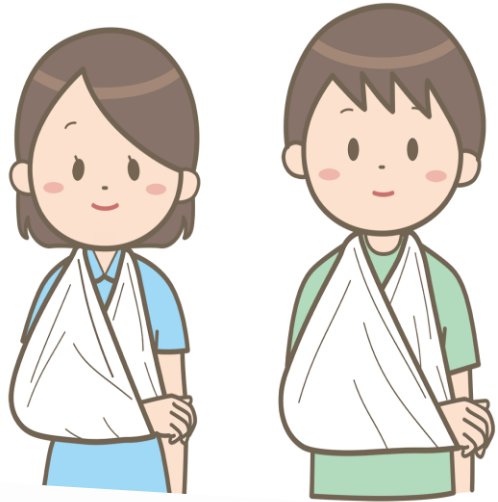


Ⅳ. 救護活動：救護対応者が絶対的に不足➡被災時は皆で協力して「救護」しよう

1. 南の救護隊は5人：圧倒的に要員不足➡要員補充が緊急課題

➡アンケートで「看護師／保健師」＝5人、「家庭防災員」＝15人」が存在

2. 救護隊の主な活動➡「心肺蘇生」「止血」が命を救う!!



止血
救護

心肺
蘇生



土屋
歯科
も
協力



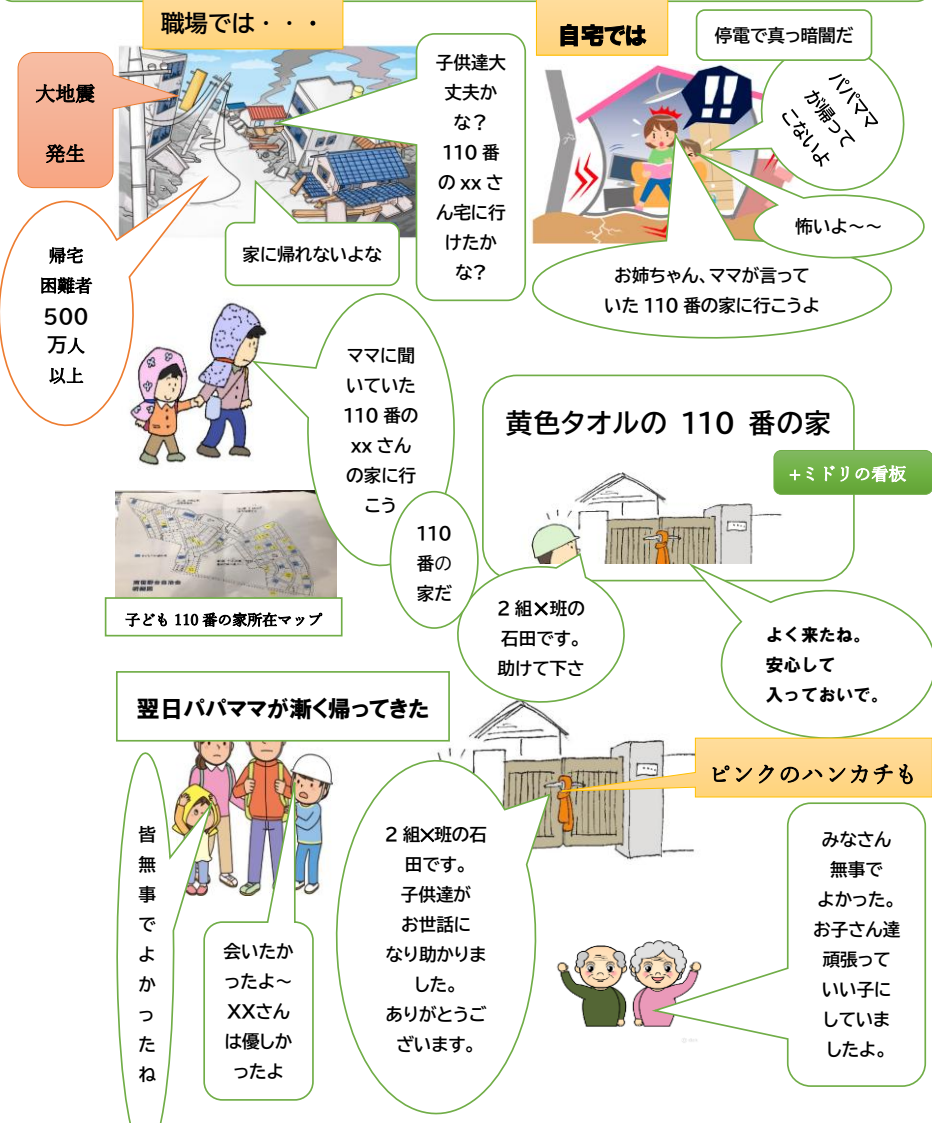
AEDはつくし保育園と共用

Ⅶで救出した怪我人の命を救おう!!

これで命を救う!!

IX. 子ども110番：被災時保護者帰宅困難で「孤立する学童」を緊急預かりします!!

大地震勃発⇒大量の帰宅困難者&孤立学童発生⇒子ども110番の家⇒孤立学童の救済



南笹野台では、子ども110番を「被災時孤立学童を救済」する制度として運用

南笹野台の「子ども110番賛同世帯」

1組4班:中田、5班:大野、村神

7班:中林、8班:土田

2組1班:小田、中越、渡理

2班:真屋、3班:森田

4組:稲森、5組:番丁

6班:春原、7班:長岡

番外:よいこ保育園

202305現在の賛同世帯です
更なる賛同世帯を募集します。

不安な学童に優しく手を差し伸べよう!!



防犯対応
の子ども
110番を

災害時に
子ども
駆け込み寺
として
防災対応
に転用

県内唯一
の事例

X・トランシーバ と ハンドマイク

被災現場



いっとき

南は12台の
トランシーバ



キー局（本部）

通信途絶時
でもリアル
通信が可能
な
トランシーバ
をフル活用



消火隊



救出隊



救護隊



本日10時から訓練
を開始しま～す。
参加して下さい。

訓練日の9時に訓練予告

10時

会長による訓練開始宣言



訓練! 訓練!
只今から訓練を
開始します。



皆さん!
集まって下さい

XXさん宅で
小火発生!!
近隣消火器を持って
急行して下さい

南はハンドマイク
を6台保有

ハンドマイクによる周知・依頼の4類型

XI. 南笹野台の減災(安否確認)訓練の流れ

10:00 震度6強の地震発生

住民は自宅と身の安全を確保

10:15

減災センター立上げ
(消火隊)

安否確認訓練

16班で同時並行で全戸確認

減災センター立上げ
(救出・救護隊)

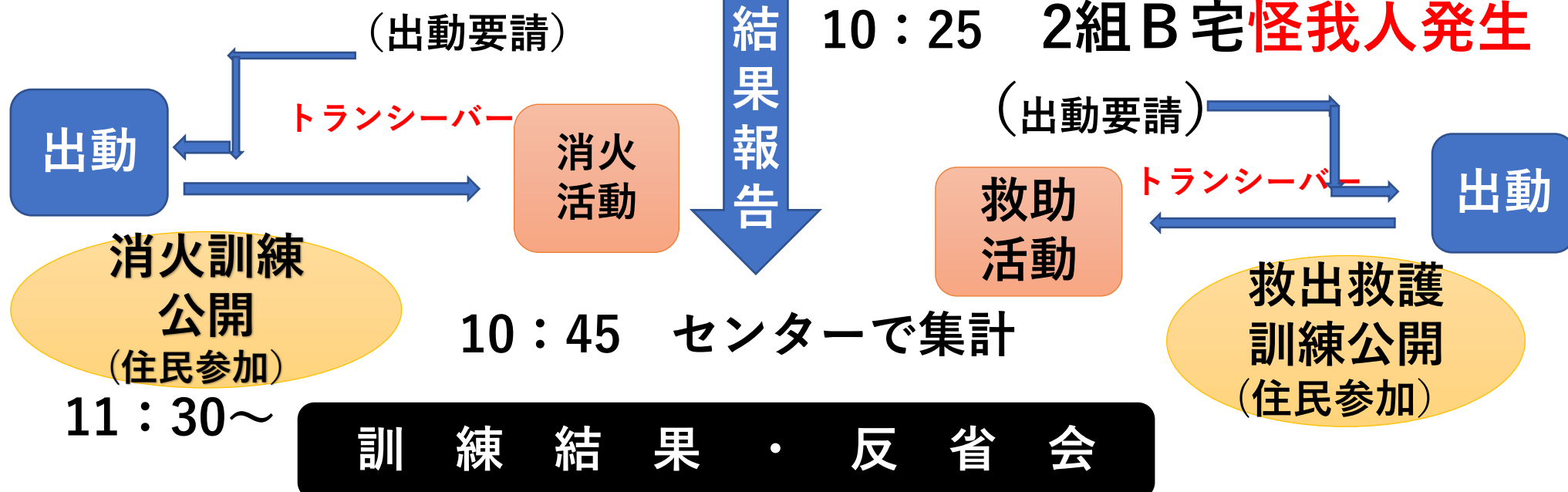
10:20

1組A宅で火災発生

いっとき避難場所集結訓練

10:25

2組B宅怪我人発生



会員の皆様へ

令和7年6月訓練の進め方

参加の「子ども」さんはスタンプラリーで景品ゲットしよう

202505

減災センター

1010
～
1030

①下敷き怪我人
救出/搬送訓練

②救護訓練

③起震車
体験訓練

④トイレパック実演
&マンホールトイレ披露

安否確認訓練

1組
住民
第三公園

2組
住民
南公園

いっとき統括誘導

始 10:30
～11:00

11:00
～11:30

11:30
～12:00

終 1組2組合同で
12:00～12:30

1230～

子ども
クイズ

11:00
～11:30

11:30
～12:00

始 10:30
～11:00

訓練は第三公園で実施

- ①説明は所定時間内で効率的に。
参加住民に全ての訓練を見て貰う
- ②グループ毎に引率リーダーを設定
1組いっとき統括・
2組いっとき統括・
- ③リーダーは所定の時間に参加住民を
訓練場所に誘導する・・・
- ④参加住民は各訓練に参加して・
南の減災活動を体験的理解する。

今回も、**12時30分から**本部前
で「**子ども減災クイズ**」を
実施 正解者に**豪華景品!!**

子どもはラリーで訓練巡り

①～④



子ども減災
クイズ

③起震車体験



①下敷き怪我人
救出訓練



①-1 怪我人
搬送訓練



②救護訓練



④トイレ訓練は保育園前



- ②便座の上から汚物袋を取り付ける
- ③凝固剤を入れる
- ④用を足す
- ⑤汚物袋を取り外し、しっかり縛って保管する

トイレパック実演



マンホールトイレ披露

【参考資料1】

以下に提示する事例は、TV、新聞情報を基に稲垣が独断でまとめたモノです。事例と見解は稲垣の価値観に基づいていますので、割り引いてお読みください。・・・・・・

災害時の**奇跡**と**悲劇**：何を学び・何を提言するか？

1. 大地震・瓦礫下敷き被害での奇跡と被害,分岐点は？
2. 福祉施設で成否を分けたのは何か？
3. 隣接エリア：自治会自主防災活動の差？
4. 小学校：実践的防災教育と避難訓練の差？
5. 自治会：自主防災組織と「自分事訓練」の差？
6. 避難所(陸前高田・松原地区体育館)で何が？

リーダの覚悟と決断とシンプルな指示

奇跡の町の5大要素

- ①地域の被災リスクを知る町
- ②一体感・絆のある町
- ③自主防災組織の存在
- ④継続的訓練の実施・
- ⑤災害弱者への優先対応

準備と訓練の無い町には奇跡は起きない！！！！

2011・3・11の名取市閑上保育所での「奇跡」も調査してみよう!!

奇跡と悲劇：何を学ぶか？

1. 大地震・瓦礫下敷き被害での奇跡と悲劇

場所	長野・白馬村堀の内地区	阪神淡路(特に神戸地区)
何時	2014年11月長野北部地震	2011年1月阪神淡路地震
結果	11人が崩落下敷き・全員無事救出	被災1時間で2116人の下敷圧迫死
何が？	①被災で48軒全半壊、下敷被害11人発生 ②近隣住民が、安否確認後被害現場に急行しチェーンソーとジャッキで全員救出・・・ (消防が来る前に被害者全員を救出) ◎4年前から「災害時住民支え合いマップ」 ・要支援者に赤○、支援者に青○印 ◎区(8世帯):組長と2人の伍長→全ての活動単位→村内清掃、お祭り、安否訓練→絆の源	①全体犠牲者6434人死亡：被災後1時間が勝負 ②初日で5036人死亡のうち1時間以内に3842 ③3842人の内2116人は瓦礫下敷き圧迫窒息死 ④下敷き犠牲者の救出は誰が？・・・・・・・・ 家族と近所：90% 消防・自衛隊：5%以下 ⑤1時間後～のリスクは火災：6割は通電火災!! ⑥この経験→耐震家屋、家具固定、自主防災、感震ブレーカ等の言葉が日常語化した・・・
学び	①隣近所(区)の付き合い=絆が防災の基本・ ②消防到着は1時間後：直後の救出は地域で ③絆+支えあいマップ+訓練が奇跡を起こした	①大地震では、被災後1時間が人的被害ゼロ化の最大勝負→地域として何が出来るか？ ②消防等の公助はこの時間帯では間に合わない ③自分の命と町は自分たちで守る→・・・・・・・・
提言	①被災直後の救助は地域力が必須→自分の・街は自分で守る→仕組みと訓練が必要 ②救出は二次災害防止のため2人/組以上で・	自助：耐震家屋・家具固定・感震ブレーカ 共助：安否確認・自主防災隊・訓練・・・

奇跡と悲劇：何を学ぶか？

2. 福祉施設で成否を分けたのは何か？

場所	川越・キングスガーデン	球磨村・千寿園
何時	2019年10月19号台風	2020年7月球磨川豪雨
結果	水没老人ホームで犠牲者ゼロ	逃げ遅れで、14人の水没死の悲劇
何が？	① 1 2 日午後、台風接近で市とホットライン開設 ② 夜間待機要員を 5 → 2 4 人に増員・・・ (施設長のリスク感応度:早い決断、強い指示) ③ 1 3 日 2 時～全員避難開始→ 4 時完了・ (1 2 日夕食後、避難困難者の事前避難開始) (本館 1 階→別館 3 階に全員 1 2 0 人) ④ 市に救援依頼・・・・・・・・・・・・・・ →全員を市の別施設に分散収容	① 3 日 17 時避難準備、22 時時避難勧告、4 日 3 時 避難指示→3 日 17 時には村から施設に電話 ② 施設では当直を普段通り 5 人を指名・・・・・・・・ ③ 4 日 4 時頃、見回り職員から越水危険を申告 →施設長は様子見と判断・動かず ④ 5 時頃から近隣住民の支援で避難活動開始・ ⑤ 7 時頃浸水、2 時間後 1 階は水没・・・・・・・・ (避難は間に合わず 1 4 人の死亡)
学び	① 施設長の「災害時死者を出さない」方針 ② マニュアル整備と訓練の繰り返し・・・ (当日は全員訓練通りに行動)	① 自治体―施設長―職員間の情報連携不足・ ② マニュアル・訓練が土砂災害一辺倒で・・・ 「水没」が抜けていた→想定が甘い
提言	① リーダの災害熱意の施設全員への徹底・ ② 施設独自の「避難スイッチ」設定・・・ (メイン階段 5 段目浸水で避難)	① リーダのリスク感応度が成否を決める・・・ ② マニュアル・訓練は想定リスクを網羅せよ ③ 早めの決断、強めの対策が命を守る・・・

奇跡と悲劇：何を学ぶか？

3. 隣接エリア(岡山・小田川流域)：自治会自主防災活動の差？

場所	総社市・下里地区	倉敷市・真備地区
何時	2018年7月西日本豪雨で高梁川支流の小田川決壊	
結果	地区全員が無事避難	家屋1階で42人の水没死
何が？	◎明治時代に水害体験→東日本震災後に自主防災組織「共助組織」結成 ◎共助組織＝班単位(15世帯)で訓練 ①当日は16時役員が公会堂に集合→22時に再集合→2人/組で水位監視 ②住民への避難呼びかけ→班単位の避難→4時半全員避難完了→死者ゼロ	◎自治会単位の自主防災活動の低調な組織文化・・・ ◎防災訓練も安否確認訓練も形式的・・・・・・・・ ①当日も「避難情報」でも避難行動しない住民多数 ②逃げ遅れで1階で浸水死42名、うち36名は高齢者(2階で水没死は1名、いざという時は人は動けない) ③健常者は2階以上に垂直避難で2350人が救助・・・→被災後、要支援者マイタイムライン作りに注力
学び	①地域の災害体験を語り継ぐ文化・ ②班単位の身近な組織での安否確認 ③自主防災組織の存在と訓練実施・	①準備と訓練の無い街に「奇跡」は起きない・・・ ②公的避難情報以外に自己「避難スイッチ」が必要 ③高齢者・災害弱者の早めの避難を徹底しよう・・・
提言	①地元の災害リスクの洗出しと継承 ②自治会・町内会単位の自主防災・ ③訓練を毎年レベルアップで実戦化	①自治会単位の自主防災組織と訓練が防災の一丁目 ②高齢者・弱者に配慮した防災＝マイタイムライン ③最後の避難手段は「垂直避難」を確認しよう・・・

テント避難所の有効事例・

奇跡と悲劇：何を学ぶか？

4. 小学校：実践的防災教育と避難訓練の差？

場所	釜石市・鵜住居小学校	石巻市・大川小学校
何時	2011年3月11日東日本地震・津波	
結果	児童全員が高台避難	校庭に集合中の児童が被害
何が？	①古老の教え『てんでんこ』の言い伝え 「早く」「高く」「遠く」へ逃げる ②8年前から群大片田教授の・・・ →『防災教育』の継続と実践 毎年2回、全校生徒で高台避難訓練 ③児童生徒は、訓練通り一目散に高台に 避難で全員無事を達成	①津波発生時、校庭に全校生徒を集め・・・ →避難方法をめぐって教職員で50分協議 ②協議中に津波に襲われ84人が死亡・・・ (保護者引き取りで24人は助かった) ③ハザードマップでも津波浸水区外・・・ →マニュアルも市の雛形準拠・・・ →津波を想定した教育・訓練もなかった？
学び	①子供の時からの防災教育の重要性・・・ ②防災は訓練・訓練また訓練・・・ (最悪を想定して)	①保護者の提訴で自治体と学校が敗訴・・・ 事前防災とリスク予見は地域の責務 →怠れば逆提訴のリスクも！！
提言	①防災は準備(教育・マニュアル)と訓練 が命を救う!! ②準備と訓練の無い所に奇跡は起きない	①自治体・学校・自治会で地場リスクを洗い 出し事前防災への取り組みを協議しよう ②学童の命を守る防災教育・訓練は学校の責務

奇跡と悲劇：何を学ぶか？

5. 自治会：自主防災組織と「自分事訓練」の差？

場所	広島・洋国団地	広島・大原ハイツ
何時	2018年7月西日本豪雨災害	
結果	訓練通りの避難で被害0	100戸中12人の水没死
何が？	①3年前の広島地滑り災害を契機に・・・ →自主防災組織を立ち上げ (団地固有の避難路も自主開設) ②災害弱者存在マップと誘導担当者を設定 ③当日は、近所で誘い合い避難所に避難・ (団地で10件の大破被害：人的被害ゼロ)	①当日は100軒中水没死12人の被害に遭遇 ②避難所で初めて同じハイツの人と挨拶)・・・ ③2019年7月のTV朝日で被害状況を放映・・・ (被災後、自治会自主防災活動を開始) 失敗から学ぶ地域へ!!
学び	①近隣の災害を自分事に出来る地域感度・ ②災害時被害集中する弱者への優しい視線	①バラバラの住民避難は命を守れない・・・ ②日頃からの近所付き合いが防災のベース ③マイタイムライン作成の重要性確認・・・
提言	①自治会単位の自主防災活動が防災の起点 ②弱者優先救済の仕組みと準備の重要性・ ③近所との絆、実践的訓練の重要性再確認	①防災は近所との絆・付き合いが第一歩・・・ ②失敗の反省から何を学び、何を変えるか？ ③学べる組織は強くなれる・・・・・・・・・・

奇跡と悲劇：何を学ぶか?⑤

6. 避難所(陸前高田市・松原地区体育館：地域避難所に指定)で何が？

誰が	体育館で練習中の女高生	避難所避難の地域住民
何時	2011年3月11日東日本大地震	
結果	高台に緊急避難：無事	避難住民の大半が水没死
何が？	①練習中の高校女子バレー部員は・・・ 大きな揺れで、屋外に緊急脱出 ②顧問の先生の機転で、全員で近くの高台 まで避難→全員無事 (マニュアルより自分のリスク感を 重視した教師の勇気)	①体育館が市の指定所避難所・・・ →住民はマニュアル通りに避難所へ ②想定津波は6m、当日は15mの実績 →想定外の被害発生 ③避難住民の大半は津波水没死・・・ (かの鵜住居の大人たちもマニュアル通りに 指定避難所の防災センターに避難して悲劇) ④陸前高田の38か所の避難所は水没)
学び	①余裕があれば、想定以上の避難行動を！ ②マニュアルには、想定外の時の・・・ →特記行動指針も必要	災害対応で命を守る4原則 ①想定を信じるな：阪神、東日本、西日本豪雨 ②マニュアルを疑え：地震中心記述が一般的・ ③最善を尽くせ：空振＝素振り、一旦避難・・・ ④率先避難者になれ：迷わず最初の避難者に！
提言	①マニュアル・想定を疑え・・・ ②<u>全ての大災害で想定外が発生</u>している・ ③最悪を想定した個別避難カルテの作成・	

【参考資料2】

「助かる命」なのに「命を守れない」=自助

地震

- 家具の固定をしていない
- 感震ブレーカーを設置していない
- 耐震(補強)家屋に住んでいない
- 消火器を2台保有していない
- ヘルメットを持っていない
- 「助けて～」を叫ぶホイッスルを不保持
- 自宅の安全箇所を家族で確認しない(廊下、玄関)
- **地震では被災後5～10分に被害が集中する。上記が出来ていないと被害遭遇率が高くなる**

津波

- 自分の地域の津波ハザードマップを知らない
- 避難許容時間内に自分の避難能力で行ける避難場所を知らない(避難先=避難所と思い込んでいる)
- 避難計画策定に当たって、「避難準備時間」を考慮していない(本当の避難可能時間は短い)。
「避難可能距離」=避難能力(分速m)×
(津波到着時間－避難準備時間)
- 知っていても、避難ルートで時間内にその場所に行けるか確認(訓練)したことが無い
- 隣近所で「声掛け」「助け合える」仲間がいない

洪水

- ハザードマップで自宅の浸水リスを確認したことが無い
- 警報レベル毎の避難タイミングと方法を家族で検討したことが無い
- 安全避難路を設定し、自分の足で歩いた事が無い■明るい内に空振り覚悟で早めに避難!!
- 高齢者・災害弱者の人で、明るい内に事前避難できる場所(家)を決めていない
- 避難が難しい切迫時は、垂直避難で2階に行くことを家族で確認していない
(真備では42人が1階で水没死)

崖崩れ

- ハザードマップで自宅の危険度を確認したことが無い
- 警報レベル毎の避難方法を検討したことが無い
(何処に：知人宅？ 親戚？ ホテル？ 避難所？・・・)
- 自宅のそばの崖の崩れの「予兆」を「何」で監視するかを検討したことが無い
(音、水の吹き出し、割れ目、匂い・・・)
- ヤバいと思ったら、自治体の警報を待たず、空振り覚悟で一旦臨時避難する覚悟を持っていない
■素振りは勲章!!
- 最後の避難手段は、崖と反対方向の2階の部屋に逃げる事を家族で確認していない

「助かる命」なのに「命を助けられない」 = 互近助

地震

- ・地震発生後は1時間がクリティカル時間との認識が住民間で共有出来ない(神戸では1時間以内の下敷き圧迫死が多数発生)
- ・被災時に異常を早期に発見する手段・仕組みが自治会(町内会)に無い
- ・異常を発見しても、隣近所で協力して助け合え地震では被災後1時間が「命を守り・救う」ル組織や仕組み(自主防災隊)が無い
- ・自主防災隊が無いので、救助機材もなく訓練もしていないので組織的な救助・消火活動が出来ない
- ・隣近所の災害弱者の存在を住民間で認識出来て無いので、救助に当たって優先対応が出来ない
- ・避難所への安全避難路を設定し、そのルートを使った避難訓練をしたことが無い(声掛け、避難路、誘導・・・)

洪水

- ・隣近所の「災害弱者の人」と「避難方法」「避難先」について会話したことが無い
- ・隣近所に「避難声掛け」をする為の「マップ」「リスト」「避難補助者」の設定が為されていない
- ・早めの避難は「勲章」の価値観が地域で共有されていない
 - 明るい内に、空振り覚悟で早く、安全に避難!!
- ・自治体の警戒レベル(3, 4, 5)以外の地域特有の「避難スイッチ」を持ち、監視する体制が存在しない■「xx川の水位」「xx岩が水没」「橋桁に大量流木詰まり」・・・

*** 202208 新潟県関川村高田地区は、自治体の警戒レベル発令前に自治会長の判断で「早めの避難」を呼び掛け全員無事避難***

津波

- ・住民間で、津波避難では「個人別避難経計画」が必須との認識が共有出来ない
- ・個人別避難計画で、個人別の「避難能力」と「避難可能距離」で「避難場所」と「避難ルート」を特定化した避難計画が作られていない(避難場所：避難タワー、高台、ビル、避難所)避難計画では、
- ・「避難準備時間」を考慮すべきとの認識を住民間で共有するように啓発していない
- ・「個人別避難計画」に基づいた「避難訓練」を実施してない
 - 所定時間内に安全な場所に行けるか??
- ・避難に当たって「隣近所に声かけ」できる関係を日頃から作っていない■誰も取り残さない!!
- ・所定の避難場所に到着しても、余裕があれば更に安全な高い場所に行く覚悟を持つように住民に啓発してない

崖崩れ

- ・崖崩れは、大雨の継続と累積雨量等の予兆はあるが「突然発生」するとの認識が地域で共有されていない
 - ・「早めの避難」しか「命は守れない」との価値観を地域で共有出来ない
 - 自治体の警報を待たず、自らの判断で「事前避難」する位のリスク感応度が地域で共有されていない
 - ・隣近所で「崩れの予兆」を設定し、お互いに監視して近隣に避難を呼びかける仕組みが無い ■異常音、水の吹き出し、崖の割れ目、匂い、・・・
 - ・隣近所で、事前避難する「タイミング」「避難先」「避難場所」を確認しあう文化が無い
- ***『土砂災害』では、下方向に逃げない、横に逃げる事を地域で共有する事が重要***

【最後に】：災害被害ミニマム化の原則と姿勢

1. 災害に備える4原則……だるま・片山氏

- ①**最悪の事態**を想定する（悲劇は想定外から）
- ②破綻より**過剰反応**（最適度の対策は不可能）
- ③疑わしくは**行動**する（やばいと思ったらまず行動する）
- ④空振りには許されるが**見逃しは許されない**（早めの指示が命を救う）
（早めの避難は空振りではなく素振り：素振りの回数が、本番でヒットを生む）

2. 災害を考える4つの姿勢……稲垣からの提言

- ①**想像力**を磨こう（何が起きる？起きたらどうする？防災＝想像力）
- ②**自分事**として考え・行動しよう（自分だけは大丈夫は無い）
- ③**他を思う心**を持とう（迷惑をかけない、弱者に寄り添う心！）
- ④「誰一人取り残さない防災」の為に何が出来るか？＝**One for All**

今日の
提言

自分の命を守り、お隣さんを助け、町を守るのは
今日ご参加の皆さんの【**気概**】と【**覚悟**】と【**献身**】です。

付録1. 我が家は**新耐震(81年基準)**だから大丈夫？

2000年基準で何を強化？

1. 複数回の大きな揺れ(熊本)・連続の揺れ(能登) では**新耐震でも耐えられない** ❶ 読売新聞 2 4 0 2 1 6 「地震から木造住宅を守るには」
① 熊本も能登も新耐震の家でも崩壊した 240709 NHKあさイチ
② 1981～2000年の新耐震も「耐力不足が8割」の調査結果！！
2. 新耐震の家でも、**敷地地盤**によっては、揺れが大きくなり耐えられない
❶ 熊本では新耐震の家が、同一町内（距離150M）で、一方は健在、一方は崩壊：「**表層地盤:軟弱地盤**」が注目された。 240901 Nスペ「軟弱地盤」
① **盛り土地盤**：横浜に多い ② **谷戸盛り土地盤**(液状化リスクも)
③ **表層地盤の深さと柔らかさ**:170409 NHKスペシャル「あなたの家はどうなる？」
3. 新耐震でも、理想は「1階壁に**耐力壁**」追加
❶ お金がかかるので無理とお思いの方は：「防災ベッド/耐震シェルター」も！
❶ 最低でも、家具の固定&リビング/寝室に家具を置かない
(揺れても身の安全を確保するために)

神奈川県は2025年度予算で「**グレーゾーン対策等**」に1500億円の予算を計上

付録2. 耐震基準(新旧で何が違うか?)

1981年から2000年をグレーゾーン対策で
令和7年予算で補助強化:東京・神奈川

令和6年7月9日 NHK あさイチ画面より

自治体で耐震化見直し

能登地震5千棟調査

20~40%崩壊

1981年

5.5~15%崩壊

2000年

崩壊は1%以下

旧耐震基準

新耐震基準

現行基準

バランスある筋交いの導入
(震度6でも全壊しないはず)

これ
でも
不安

- ①偏りのない耐力壁
- ②地盤に応じた基礎
- ③接合部に金具取付

今後はコレ
を基準に
耐震を
考えよう

付録2-1 神奈川県は2025年度予算でグレーゾーンに補助金 (横浜市もグレーゾーン予算計上)

横浜市も予算でメニュー化

2025年「かながわ 県のたより」 3月号



グレーゾーン耐震補強
メニュー候補

- ①防災ベッド・・
- ②耐震シェルター
- ③筋交い追加・・
- ④耐力壁に入れ替え
- ⑤屋根の軽量化・
- ⑥擁壁耐震補強・
- ⑦崖地耐震工事・

費用対効果で何を??

付録. 3 簡易家具固定の智慧(安くても・・・)

7月9日NHKアサイチ

1. 箆笥・家具

衣類満タン段ボール



100円ショップ 滑り止めシート

2. 本箱



100円ショップ クッション両面テープ

3. 食器棚

効果は震度7実験で実証済み



100円ショップ カギフック

4. TV



壁面

TV裏面

止めワイヤ

I. 関連死をめぐる議論：漸く注目され始めた

1. 背景：熊本地震=220/276、能登地震=341/569■(関連死/死者数)

■最近は、直接死より関連死の方が多いなっていることに留意!!

2-1 熊本での関連死の原因

- ①肉体・精神に**ストレス**(40%)
- ②避難生活の**体調悪化**(30%)
- ③**医療の遅れ**(17%)
- ④**インフラ途絶**(5%)

2-2 能登での関連死の場所

- ①避難所(34%)
- ②介護施設(33%)
- ③**自宅/車中**(29%)
- ④施設に移動中(8%)

3. 災害対策基本法改正(2024.06)

86条7：避難所以外の場所に滞在する被災者への生活環境の整備を努力義務化

■要支援者への配慮(対象者把握・見守り)：物資・医療・情報・見守りの提供

4. 南海トラフ被害想定見直しWG(2023～検討、2025.03公表予定)

ココ10年の強靱化を踏まえ想定死者32万人の見直し→29.8万人(高齢化と人口減少)

今回新規に「**災害関連死の推定と対策**」を追加した事に注目しよう。

(東日本地震の「3780/22000」から5万人の関連死を推計?)■**少なすぎる!?!??**

①自治体は環境整備義務で何を?

②避難所は地域センターとして何を?

③自治体は「見守り」等で何を?

■
関連死は
人災です

災害関連死を防ごう

阪神淡路：919/6450 東日本：3780/22000
熊本：220/276 能登：341/569 ・ **関連死**/死者

基礎疾患・高齢者に被害が集中

盲点：二次避難場所と在宅避難者

1. 折角生き延びた「命」を失なう【災害関連死】対策

①避難所で：TKB(トイレ、キッチン、ベッド)早期確保

- ▣段ボールベッドと間仕切り（雑魚寝はストレス増大→関連死）
- ▣女性と災害弱者が「安心」して入れるトイレ確保
- ▣特別隔離スペースの確保：インスタントハウス(着替え室、授乳室)
- ▣各種サロンの開設(キッズ、高齢者、趣味、体操、…)でストレス軽減

*避難所キャパ不足で「入所者タライ回し」で**高齢者・疾患者**が「関連死」

②自宅・車内で：エコノミー症候群に注意▣熊本でコレが多かった!!!

- ▣定期的な運動を(かかとの上げ下ろし、ふくらはぎの揉み)!
- ▣水分補給：トイレを我慢しない(トイレパックは必需品)

避難所運営
委員に左記を
要望しよう

イタリアと台湾の
事例を参考に

総社市のテント
避難所も調べよう

避難所確保は大丈夫?

スフィア基準

避難所と2次避難場所/在宅避難者間：情報・見守り・配給連携は??

▣能登で今でも関連死が増え続ける要因??

- 自治会でも
- ①トイレパック使用体験・
 - ②湯煎料理体験講習・・・・
 - ③口腔ケア実践講習・・・・
 - ④エコノミー症候群体操
を自治会イベントの
中で企画していこう

2. 以外と気づかない「**誤嚥性肺炎**」＝関連死の一因▣口腔ケアで予防

- ▣水が無くても「歯磨き」：ペーパー歯磨きシート、
ウェットティッシュ、液体歯磨き、キシリトール

在宅関連死を防ごう：関連死は人災です

1. 災害関連死：地震直後は生き延びたが、避難所生活、在宅避難生活でストレス、持病悪化、医療体制不備、自殺等で死亡するケース➡直接死より多い関連死。
 2. 関連死の死因：呼吸器疾患=33%、循環器疾患=30% ➡ **基礎疾患患者**
年齢：70歳代=25%、80歳代=40%、90歳以上=10% ➡ **高齢者**
時期：1週間以内=17%、1カ月以内=17%、3カ月以内=26%
1年以内=25% ➡ **長く続く事に留意(直後よりその後の死者が多い!!!???)**
 3. どう防ぐか？ ➡ 「社協+民生+住民」で被災後3カ月「継続的見守り体制」を構築
 - ①直後～2日：人工呼吸器/透析器の緊急手配 ➡ **速やかな医療確保**
 - ②数日後～：**誤嚥性肺炎対策** ➡ 高齢者宅訪問で洗口液・液体歯みがき配布
トイレの我慢は「諸悪の根源」=基礎疾患悪化 ➡ トイレパックを備蓄しているか？
エコノミークラス症候群対策 ➡ 踵上げ下げ、脹脛マッサージ、ラジオ体操を日頃から
社協・民生委員・住民で「**平時から見守り支援体制を協議**」しておこう。
 - ③1か月後～：**自殺者対策に留意** ➡ 被災者・支援者のブラック化(自殺予備軍)チェック
在宅避難生活者の「孤立・不安・将来不安」を「見守り支援」する仕組みは??
- 自治会は、被災時「近隣見守り支援」で「**在宅関連死ゼロ**」を実現しよう

[人的被害ゼロ]の
盲点 ➡ 「災害関連死」
をどう防ぐか？

南海トラフ新被害想定から学ぶ(20250331中央防災会議)

10年前の想定は32万人→過疎・高齢化・コミュニティの劣化

1. 主な公表値

死者：29.8万人、**災害関連死：5.2万人** 全壊焼失家屋：235万棟

2. **災害関連死**を公的に**初めて見積**もった

①熊本、能登での実績から、「災害関連死」に着目

熊本：220/276 能登：341/569→直接死より関連死が多い！！

②避難所環境の改善急務→3か月以内に80%が死亡(台湾並みのTKB)

在宅避難者の見守り→能登では関連死の30%が自宅/マイカー内

3. **事前準備・対策すれば、被害は激減**

津波 早期避難 率	20%→死者21.5万人	100%→7.3万人
家屋の耐震化率	90%→全壊127.9万棟	100%→35.9万棟
感震ブレーカ設置率	8.5%→消失76.7万棟	100%→35.8万棟

どう
する??

自助/互近助

国土強靱化しても!!

石川県も地震被害想定見直し(20250506)

1. 見直しの経緯(27年間被害想定見直しをして来なかった→誰の責任か??)

1998年 地震被害想定を公表→2020年珠洲地震→2023年見直し作業開始

→2024年1月能登地震発生→2025年5月 県の地震被害想定見直し公表

2. 想定被害と能登地震の被害

	1998年想定 能登半島北方沖断層	2024年能登地震 能登半島北岸断層	2025年想定見直し 能登半島北岸断層帯	()内は森本・富樫断層帯
建物被害	2,340棟	6,445棟	23,956(46,947) 棟	建物耐震強化は？
死者	7人	584人	1,286(2,212)人	どうやって減らすの？
関連死	—	356人	128 (768) 人 ???	ゼロ化対策は？
怪我人	211人	1,394人	4,611(9,344)人	怪我→死亡を防ぐ？
避難者	2,781人	30,000人超	28,916(191,896)人 ??	どこに收容するの？

阪神淡路の3年後

①98年想定を前提に県(住民)は、被害を過少にみて、準備対策をして来なかった。

②能登町の自主防災組織率は32%と低く地域を挙げた防災活動は低調だった。

③2024年正月の地震の直接死の90%は建物瓦礫下敷きだった。

④被災住民の声：『もっと早くこの想定が公表されて、官民挙げて対策していれば・・・！！』